

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

研究データ利活用協議会

2022年11月

研究データ利活用協議会事務局

- ◆ RDUFとは？
- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 部会について
- ◆ 入会のご案内

◆ RDUFとは？

- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 部会について
- ◆ 入会のご案内

◆ 研究データ利活用協議会（RDUFとは？）

- オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用を進める関係者により個々の組織や分野を超えた情報共有や議論を行うコミュニティ。
- 研究データ利活用に関する国内外の事例の共有などにより、我が国における研究データ利活用を推進することに寄与することが目的。
- 研究者（データ提供者、データ利用者）、大学・研究機関のデータ・リポジトリ関係者、図書館員など幅広い分野の関係者約**180名**が個人会員として参加している。

◆ 設立の経緯

- 「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」を通して生まれた分野を横断した研究データ担当者コミュニティを母体として、データ利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月3日に設立。

RDUFについて

◆ 会員

- 個人会員（約180名）
研究者（データ提供者、データ利用者）大学・研究機関のデータリポジトリ関係者、図書館員など幅広い分野から参加。
- 機関会員（8機関）
RDUFの目的に賛同し、活動に貢献する企業又は団体等。

◆ 企画委員会

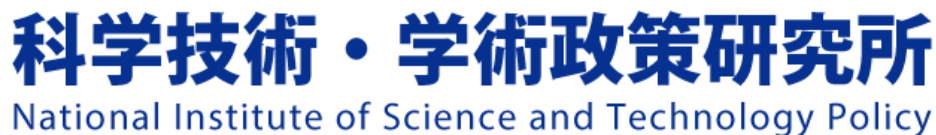
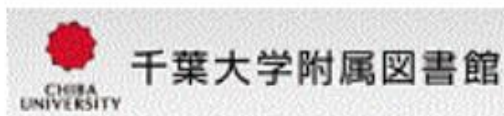
RDUFの運営を効率的かつ円滑に推進するため設置。企画委員会を開催し、年度ごとの活動方針や活動総括の策定、機関会員入会の審査などを行う。

個人会員数推移



現在の個人会員数は**179名**

機関会員（8機関）



機関会員：RDUF の活動の趣旨に賛同し、RDUFの活動に主体的に関わる機関
2022年度新規加入なし

2022年度企画委員（敬称略）

大向 一輝（委員長）	東京大学
南山 泰之（副委員長）	国立情報学研究所
井上 佐知子	国立国会図書館
大園 岳雄	千葉大学附属図書館
小野寺 千栄	物質・材料研究機構
権田 真幸	日本原子力研究開発機構
齊藤 千鶴	海洋研究開発機構
高井 貴子	日本医療研究開発機構
武田 英明	国立情報学研究所
中島 律子	科学技術振興機構
林 和弘	文部科学省 科学技術・学術政策研究所
藤井 幹也	奈良先端科学技術大学院大学
松本 崇博	高輝度光科学研究センター
村山 泰啓	情報通信研究機構

計14名

RDUFについて

◆ 2022年度の活動方針

1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

RDUFについて

◆ 活動体制

企画委員会

事務局（JST）

【会員の活動】

- ・ 小委員会、部会への参加（有志）
- ・ メーリングリストでの議論、情報共有
- ・ 企画委員の信任投票
- ・ イベント参加

小委員会

（活動期限1年）

研究データの利活用についてテーマを設け、成果物の作成に取り組む。

部会（常設）

小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を長期的、継続的に行う。

人文学・社会科学のデータ共有における課題検討

研究データへのDOI登録促進

研究資料・実験機器へのPID付与検討小委員会

データ管理計画（終了）

研究データのライセンス検討プロジェクト/
研究データライセンス（終了）

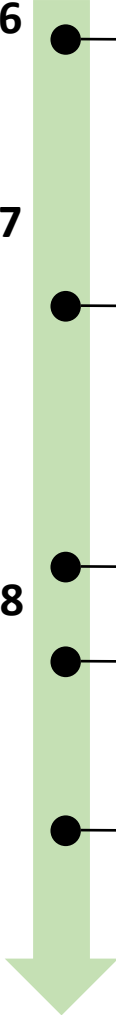
リサーチデータサイテーション（終了）

ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会
(JDARN)

データ共有・公開制度検討部会

- ◆ RDUFとは？
- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 部会について
- ◆ 入会のご案内

これまでの活動実績

- 
- 2016**
- 6月 設立**
 - ・ Webサイト・メーリングリスト開設
 - ・ 公開キックオフミーティング開催
 - ・ 研究会（全3回）、サイエンスアゴラ出展
- 2017**
- 6月 企画委員会発足**
 - 公開シンポジウム～オープンサイエンスを巡る世界動向～
 - データ管理計画（小委員会）設置
 - 研究データのライセンスプロジェクト（小委員会）設置
- 2018**
- 11月 「デジタルアーカイブ」と「研究データ」の出会いシンポジウム**
 - 6月 Japan Open Science Summit2018参加**
 - 11月 リサーチデータサイテーション（小委員会）設置**

これまでの活動実績

2019

- 2月 公開シンポジウム～研究データ利活用の更なる促進のために～
- 6月 Japan Open Science Summit2019参加
- 7月 研究データライセンス（小委員会）設置
- 10月 RDA × RDUF Meeting

2020

- 1月 ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク（小委員会）設置
- 12月 公開シンポジウム（初のオンライン開催）
 - ・全ての小委員会が活動終了

2021

- 2月 運営規則改定
 - ・部会設置
 - ・企画委員会任期制度改定

データ共有・公開制度検討部会設置
ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会設置

これまでの活動実績

2021

- 6月 Japan Open Science Summit2021参加
- 10月 人文学・社会科学のデータ共有における課題検討
(小委員会) 設置
- 11月 公開シンポジウム開催
研究データへの DOI 登録促進 (小委員会) 設置

2022

- 4月 研究資料・実験機器へのPID付与検討小委員会
(小委員会) 設置

その他、各種広報活動や各委員・小委員会・部会による講演、セッション開催、RDAへの参加など随時実施

- ◆ RDUFとは？
- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 部会について
- ◆ 入会のご案内

小委員会とは

◆小委員会の目的

研究データ利活用について議論するResearch Data Alliance (RDA) に倣って、有志による議論・意見交換を行い、研究データの利活用に向けて提言や指針をまとめる場として設置。

活動期間は1年間。(延長、再設置可能。)

まとめられた提言などは成果物として公開し、活用を図っていく。
RDUF会員であれば参加可能。

◆活動内容

グループ討議、全体討議、外部発表 等
最終的に成果物を取りまとめ、公開する。

小委員会の設置

◆小委員会の設置

小委員会で自らが先導して検討する意志を持つRDUF会員であれば誰でも提案可能。

(事前にコアメンバーを組んでからの応募を推奨)

◆設置要件

小委員会募集要項の内容を踏まえ、規定の提案書様式に則って応募。

下記に掲載

<https://japanlinkcenter.org/rduf/subcommittee/index.html>

申請日 平成 年 月 日

RDUF小委員会テーマ提案書(案)

1. 運営区分	3ページの1.3.(3)運営区分 にある3区分から1つお選び下さい。
2. テーマ	検討したいテーマを決めて記載ください。 小委員会名になります。(仮称でも構いません。)
3. 目的	本小委員会の活動目的の詳細を記載ください。
4. 成果物	12ヶ月間で得る予定の成果物、アクトカムの概要を記載ください。
5. 成果のインパクト	期間終了後でも良いが、活動の成果を社会実装していくための道筋やマイルストーンについてや、成果を社会実装したときに得られるインパクトについて、記載ください。
6. 小委員会の活動計画	想定から1年間の活動期間中に実施する ・活動の形態(会議、各種イベント)や開催頻度 ・その間でのマイルストーン ・成果物創出やコミュニティ拡大に向けた方策
7. 初期委員(所属)	RDUF 会員 人数は規定しませんが、できるだけ関係するコミュニティのメンバーと組んで、ご応募されることを推奨します
8. その他	自由記述 (今後集めるメンバーの想定など。)

A4 1〜2枚程度にまとめてください。

これまでに活動した小委員会

◆データ管理計画（2017～2019）

DMPについて、共有可能な基本的考え方を整理し、DMPが扱うべき内容について、標準規格提言として取りまとめる。

◆研究データへのライセンス検討（2017～2019）

➔現在は部会

研究データの利活用においては利害関係者がデータにライセンスを付与し法的な相互運用性を明確にすることが重要である。本小委員会では研究データにどのようなライセンスを付与するのが適切かを探る。

◆リサーチデータ・サイテーション（RDC）（2019～2020）

研究データの引用について、実現を阻む課題を抽出し各種調査を行うことで、実現に向けた基礎的資料を作成する。

これまでに活動した小委員会

◆ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク（JDARN） （2017～2020）→現在は部会

研究データを安定的に公開する為には信頼できるデータリポジトリであることが重要である。我が国のリポジトリ関係者間で共通する問題と国際標準等の先進事例を集め整理する。

◆研究データライセンス小委員会（2019～2020）

研究データのライセンス検討プロジェクト小委員会で作成したガイドラインにつき、バージョンアップに向けた論点出しを兼ねた、各分野（学術、産業、官庁等）に対する普及活動を行う。また、取りまとめた活動成果については、RDA/CODATA Legal Interoperability IG へのフィードバックを行うことで、国際貢献も視野に入れる。

活動中小委員会

➤ 人文学・社会科学のデータ共有における課題検討

2021年10月設置。

人文学・社会科学のデータ共有における課題を解決するために国内のデータアーカイブ等の事例を共有し、提言を行うことを目的とする。成果物としてデータ共有における事例集を作成している。

➤ 研究データへのDOI登録促進

2021年11月設置。

現在の研究データへのDOI登録に関する運用経験、実情、課題等を調査・議論し、検討・調査結果等を成果物としてとりまとめることで、研究データへのDOI登録促進を目指す。成果物として研究データへのDOI登録におけるガイドラインを作成している。

➔ 本日発表予定

活動中小委員会

➤ 研究資料・実験機器へのPID付与検討小委員会

2022年4月設置。

研究に用いた有体物に関する情報もサイバー空間において参照できるようにするため、有体物としての研究資源に付与する永続的識別子(PID)とこれに付随するメタデータの管理と利活用に関する調査を実施する。

➡本日発表予定

- ◆ RDUFとは？
- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 部会について
- ◆ 入会のご案内

部会とは

◆部会の目的

小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を長期的、継続的に行うことを目的とし、活動期限に縛られない枠組みとして設置する。

◆活動内容

小委員会成果物の更新や利活用促進、継続的な議論、コミュニティの拡大等

活動中部会

➤ データ共有・公開制度検討部会

「RDUF 研究データライセンス小委員会」による活動の継承と展開を目的とする。主な活動として研究データの公開・利用条件ガイドラインの作成と普及等を行っている。

➤ ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会(JDARN)

「JDARN小委員会」活動の継承および展開を目的とする。

主な活動としてデータリポジトリ整備・運用ガイドラインの草案執筆等を行っている。

➡ 本日活動報告予定

- ◆ RDUFとは？
- ◆ これまでの活動実績
- ◆ 小委員会について
- ◆ 入会のご案内

入会のご案内

RDUFへ参加しませんか？

本協議会（RDUF）に入会すると、関連イベントなどの情報をメールでお届けします。

オープンサイエンスにおいても重要視される、
データ共有・利活用のコミュニティに参加しませんか？
（参加費無料！）

入会はこちらから！



■ 詳細はこちら

<https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html>